

村役場に養蜂箱設置

恩納村とOIST 「ハチミツも名物に」

【恩納】恩納村（長浜善巳村長）と沖縄科学技術大学院大学（OIST、ピーター・グルース学長）は4日、恩納村役場屋上に養蜂箱を設置した。ミツバチを使った赤土流出防止と、サンゴ保護に取り組む「Honey & Coral Project（ハニー&コーラルプロジェクト）」の一環。村が取り組むSDGs未来都市計画の一つでもある。



設置した養蜂箱を前に「サンゴを守る」と氣勢を上げる恩納村の長浜善巳村長（前列中央）ら＝4日、恩納村役場

プロジェクトはおおまかに①収穫を終えた畑を花畑にすることで赤土流出を防止②養蜂箱を設置し花畑を蜜源にする③農家はハチミツで収益を得る④花はそのまま次期作付けする際の肥料を繰り返すことで農家が持続的に取り組める。OISTはミツバチのコロニー（女王蜂を中心に構成する群体）を提供する。養蜂家に世話をしてもらって、ミツバチの大量死の原因となるダニの研究を進める。村はこれまでに2カ所の畑に一つずつ養蜂箱を設置



して実証実験した。半年で約9ヶ（約4万円）を採蜜した。プロジェクトを主導する村赤土等流出防止対策地域協議会で赤土対策を担当する農業環境コーディネーター桐野龍さんは「1カ所の畑に5、10個設置できるだろう。利益も5倍以上になる可能性がある」と自信をのぞかせた。

4日、役場屋上に設置した三つの養蜂箱では、約2万6千匹のミツバチを飼育する。長浜村長は「赤土防止の花畑もきれいで景観面でもプラスになる。さらにハチミツという副産物もある。これからサンゴに優しいハチミツが村の名物になるよう期待している」と笑顔で話した。

サンゴ増やそう苗41本植え付け

恩納でソフトバンクなど

【恩納】ソフトバンクと



光協会、サンシャイン水族館は5日、恩納村前田漁港でサンゴ植え付け式を開いた。写真。海洋保護を通じた環境保全活動「ソフトバンク 恩納村 未来とサンゴプロジェクト」の一環。プロジェクトは今年7月31日から開始した。サンゴの苗を購入するための募金活動や苗の植え付け、ビーチ清掃活動などをする。

5日は全国から集まったボランティアが村内のビーチを清掃した後、海に41本のサンゴの苗を植えた。

千葉県から参加した坂本奈央さん（41）は「今の活動が未来につながる。サンゴを守るために頑張りたい」と話した。